2019《後期》構音指導講座　参加者『一言感想』集

【 加筆　2022 年4月中旬 】

参加者４９名中、実に４６名の先生方から『一言感想』をいただきました。『一言感想』といいながらも、お帰りの短い時間の中で、本当に多くの感想、指導中のお子さんに対する想いのあふれる感想をお寄せいただき、本当に、本当にありがとうございました。

また、この感想【含：梅村の感想への感想や質問に対する回答】を、相談室のＨＰに掲載することをご了解いただきありがとうございます。

2018・2019[前期+後期]構音指導講座 参加者人数累計≪145名≫　　＊３名中１名は、沖縄

北海道	2	東北	80	関東	42	甲信越	8	北陸	1
東海	2	関西	1	中国	6	四国	0	*九州	3

2019[後期]構音指導講座 参加者人数≪49名≫　　＊３名中１名は、沖縄

北海道	1	東北	23	関東	16	甲信越	2	北陸	0
東海	1	関西	1	中国	2	四国	0	*九州	3

【 お断り 】

2022 構音・吃音指導講座の開設に当り、再度読み直し、加筆させていただきました。

① 行替えは、本文と異なる場合があります。

② ※〇〇や※〇〇の記述、及び、【●●】や【●●】内の記述は、梅村の感想・意見です。

③ ご本人の記述(書体=HG 明朝 B)の中で、青文字にした部分は、他の方にも考えて頂きたいと思える内容です。

④ 構音記号は、旧記号です。ご了承ください。

⑤ 個人名は、所属を含めて全て記入しておりません。ですが、おおよその職種があったほうが良いと考え、以下の４種に分類し、番号の後に記しました。

Ａ：通級指導教室（ことばの教室）　Ｂ：病院・福祉関係の言語聴覚士

Ｃ：歯科クリニック関係　　Ｄ：その他

なお、自己申告で、次年度から通級指導教室とあった方は、Ａにしました。

01Ａ

職場に届いた案内の葉書を見て、どうしても気になって申し込みをしました。今まで、これが大事だと思ってやってきたこと、教えられてきたことと逆のことが書いてあったからです。「舌の体操は必要ない」「側音化構音の指導をｉから始めなくて良い」…等々。だとしたら全く意味のないことを、私は毎日、子どもにさせていることになる…。それと、“早期終了を目指す”という所にもすごく惹かれました。

この講座を受けて、今、頭の中がごちゃごちゃになっています。子どもと会った時からの声のかけ方や、座る位置関係、とりあげる音、等々すべて見直し状態です。来て良かったです。ありがとうございました。

※　「“早期終了を目指す”という所に、もすごく惹かれた」との記述を目にし、温かい気持ちになりました。01A先生の両肩の向こうに、親御さんの姿が見えたような気がしたからです。

どんな場合であっても、何か目標を立てると、必ず幾つもの道（考え方や方法）があることを知り、戸惑い、そして悩みます。では、その幾つもの道から、**何を基準に**、進むべき道を選べば良いのでしょう？

梅村の基準は、単純です。『早期改善・早期終了』です。なぜなら、私が親なら、必ず“改善した上での早期終了”を願うからです。

学問的には、様々な指導方法があっても良いでしょう。でも、倫理上、選択の基準は、『親や本人の願い』以外のものであってはならないと思うのです。

先生方が、今、目にしている指導の考え方や指導の方法は、先生が知りえる指導の考え方や指導の方法の中から、『親や本人の願いを叶える、または、願いに応じる』、**現時点で**、最良と納得できる“考え方や指導の方法”なのでしょうか。

梅村自身は、自身の指導に拘るあまり、親御さん・本人の願いに背を向けることの無いように、神山五郎先生から学んだ「３・３・３の点検」を怠らないように心がけていますと断言できるようになりたいと思う今日この頃です。

※　「３・３・３の点検」＝ ３回指導を行って思うような結果が出ないときは、指導の仕方が悪い。または、その指導の仕方が対象児（者）に合っていない。つまり、指導技術の問題。３ヶ月間指導を行って思うような結果が出ないときは、どこかに見落としがあったり、総合的な所見の誤り。結果、指導方針に間違いがある。そして、最低３年毎に最新の情報を得、知識・技術・方法論・基礎理論について自己点検を行うこと。近頃では１年毎。

02A

たくさんの指導場面をみせていただき、ありがとうございます。いろいろなお話を聞く毎に、自分の足りないところやダメな部分を感じる研修になりました。

関わりが大事ということは、分かってはいるのですが、子どもの何をみるか、子どもの変化をみながら考えていかなければならないと思いました。その上で、指導の技術も磨かないと難しいと思いました。

今まで、たくさんの単語やその組み合わせなどを考えて指導していたのですが、なるべく少ない単語で、いろいろ練習し、日常会話へ般化していくことができるということが、新しい視点でした。気を付けて言えているところをたくさんほめて、そこから抜けられず、日常では般化していない子もいますが、練習のさせ方や声掛けの仕方に問題があるだろうともわかりました。

子どもが楽しく通級できるために、何をすればいいか、考えていきたいです。ありがとうございました。【全くその通りです。】

03A

梅村先生、スタッフの皆様、このような機会を作ってくださって、本当に有難うございました。

前回参加させていただいた時は、音をつくる方法ばかりに目を奪われてしまっていましたが、今回もう一度参加させていただいて、関係性の大切さについて、今さらながら気付かされました。特に、子どもの突発的な行動を拾うか拾わないかについて、本当に自分の判断は甘いなということを知ることができました。今、この点で苦心しているケースがありますので、もう一度、自分の考え方や関わり方を、じっくり考え直してみたいと思いました。

しかし、まだまだ、自分が気づいていないことで、配慮のない態度や言葉づかいをして関係性をくずすかもしれませんので、ぜひ、気づきの場として、このような研修会を今後も開催していただければ有難いです。同じDVDでも繰り返し見させていただいて、先生の関係のつくり方を何度も味わい考えていきたいと思いました。

04A

初めて参加させていただきました。

近くにおりますのに、なかなか参加できずにおりましたが、今回、これまでの内容も含めてお話下さったので、たいへんありがたかったです。

構音指導について知りたいという思いで参加しましたが、“その音を言う前に構音運動は始まっている”という話で、やはり構音評価の力をつける努力が必要、と痛感しました。きちんとした音の見取り【聴き取り？】ができないことには、指導はできないので、先輩の先生方の協力を得て、力を向上させられるようにしたいと思います。

音の見取り【聴き取り？】だけでなく、“どんな子？”の見取り【理解？】が前提。これも、日々の努力が大切だと感じます。今回、様々なVを見せていただき、その中での先生の見取りをお聞かせいただき、大変勉強になりました。

２日目のオムニバスは、どれも心に残るものでしたが、中でも、③のエイ君との関係づくりのVが印象的でした。構音のまねっこのやり方は、こういうお子さんもそのまま使えるということが、よく分かりました。“ことばによるやり取りのまえにまず、動作から（子のアクションをまねることから、こちらのまねをしてもらう関係づくり）”いろんなタイプの子への対応につながるものだと思います。現在担当しているお子さんに対しても、いろいろ自分なりに探りながら、指導に生かしていきたいと思います。

※　「見取り」「見とる」他、今風に、めっちゃ気になります。『読み取る』や『読み解く』では、ダメなんですか？　少なくとも「音の見取り」は、ないんじゃないかな？

05A

子どもの指導以前に、子どもの理解ができているのか、どんな性格なのかを見とる【読み取る？　】ことを、いかに自分ができていないのかがわかりました。

子どもの動作の１つから、20 くらいの理由を考えるような視点をつけたいです。

希望としては、側音の指導に特化してもらえたら嬉しかったです。なぜなら、側音指導の講座は他になかなかないから。

前期に受けさせてもらい、側音の指導方法を変えて少し先が見えてきたので、前期の講座を忘れかけてきたのを取り戻したかったり、深めたかったので、吃音指導も知れてありがたかったのですが、ちょっと、側音の時間がなくなったのが残念です。

２日間ありがとうございました。夏の暑い時期に寝ずに用意してくださり、感謝します。

06A

〇〇県内の側音化構音の研修の誘いの文書は多々ありましたが、今一つその気にならず、ずっと後回しにしていましたが、ネットで梅村先生の指導を拝見したのと同時に、山形からの葉書をいただき、行ってみたいという気持ちを強く感じました。「これだ！！」と思い…

前期と後期、新幹線やバスの都合により、全体は通して視聴できませんでしたが、自分なりに少しずつ理解できてきたことを嬉しく思います。

先生の「間違った音を数十回繰り返せば、側音化したものを数十回練習したことになる」という言葉がとても心に響きました。構音指導の中で座右の銘にしていきたいと思います。

貴重な経験をありがとうございました。励みにしていきたいと思います。

07B

構音指導は、ＳＴの業務の中で最もやりたかったことですが、最も難しいと感じる分野であり、吃音のあるお子さんの対応と並んで、下手な関わり方をすると、取り返しのつかないことになるのではないか…と恐れる気持ちが消えませんでした。正直なところ、その恐れは今も消えていませんが、梅村先生のご指導の様子を映像で拝見し、お話を伺えたことで、随分と前向きに取り組む勇気が出てきました。指導室の中だけが構音指導の場ではないとのお話は、胸に響きました。子育て中の自分を思い出し、子どもの全部を慈しむ気持ちをベースに持っていれば、支援する際の心的（心構え？）準備になるのではないかと、自分なりに腑に落とすこともできました。

貴重で大変に有意義な学びの場をいただき、ありがとうございました。

［質問させて下さい］

「吃音は直りますか？」と質問された場合、今までは、治癒する人の割合や、男女比、残る人の割合、傾向等を説明し、禁忌や環境調整などについて説明する以上のことができませんでした。ケースバイケースかとも思いますが、自分が実際に指導する立場にない場合、どのようにお答えすることが良いのか悩みます。梅村先生はどのようにお考えでいらっしゃいますか？

※　このご質問に対するお答えは、07Ｂ先生が、吃音のあるお子さんについて、どのような知識があり、どのような指導技術を持ちなのか、また、その機関の相談業務のありようによっても大きく異なってきます。ましてや、“自分が実際に指導する立場にない場合”となれば尚です。親は、吃音の一般論や一般的な知識が知りたいのではありません。目の前の自分の子供について知りたいのです。ですか

ら、“実際に指導する立場にない”担当者が、「自分の子どもの吃音は直りますか」の親の切なる疑問に答えなければならないシステムを変える必要があると思います。

当相談室を訪れるほとんどの方は、必ず他の相談・指導機関を訪れています。その中で、多くの方から聞かれるのは、「自分の子どもの相談に行っているのに、本やネットで分かる話でがっかりしました」というものです。親心です。実によく調べていらっしゃいます。「うちの娘、今、タレント養成のダンススタジオに通っていて、タレントになれますか？ *パンフレットには、俳優やMCになっている人もいるとありますが*・・・」なんていうのもありました。皆さんは、何と答えますか？

08A

２日間ありがとうございました。何度お聞きしても、学ぶこと、反省することがたくさんあり、葉書をいただくと即申し込みをしています。

様々な研修会で教えていただくことも、ためになりますが、実際のＶＴＲを見せていただくことで、子どもの見方、関わり方、何を育てて行くかなど、深く考えさせていただき、感謝の一言です。毎週、貴重な時間とガソリン代を費やして通ってくださっている子どもと保護者の方々のためにも、まだまだがんばらなければ。まだまだ甘いなと感じさせられた２日間でした。

問題は山積みなのですが、「～のせい」にしないで、子どもの気持ちを感じ取り、子どもの立場になって考え、関わっていけるよう、できれば楽しんでいけるよう、学び続けていきたいと思いました。

09A

梅村先生が実際に指導している映像が、何より勉強になりました。できれば、映像を視聴する時間がもっと長いとありがたかったです。（特に一日目）

まさと君のような子を、どのような方法で、どう指導したのか、もう少しビデオ視聴したかったです。［シ］が言えたところしか分からないので、他の音の構音指導も知りたい。

中３男子への指導も見たかったです。【2022 構音指導講座では、視聴の予定です】

全体を通して

一日目のびいさんへの指導

二日目のエイ君との関係づくりとタクヤ君への初回面接、とても勉強になりました。

今後、ネットの方でも視聴したいと思います。

二日目の午後の内容が特にとても良かったです。今後の指導に生かしていきます！

来て良かったです。

10A

梅村先生はじめ、運営に携わった皆様、本当にお世話になりました。一つ一つとても勉強になりました。幼児でも授業時間いっぱい集中して楽しそうに学ぶ姿に驚き、感動を覚えました。

※　さて、「授業」なのでしょうか？　指導をごらんになっていて、「教えて諭す」ような指導場面はありましたか？　『誤りの自覚がない子』や『直す意欲の無い子』などは、学んでいる感覚は全くないと思います。『ただ遊び』に来ているのです。今回ご覧いただいたお子さんもそうです。格好をつけないで、指導者側から平たく言えば、「発音を直している」に過ぎないのです。ですから、教員をやっているときも、現在も「授業」と考えたこともありませんし、考えたくもありません。それに、時間「いっぱい」というのは、何の時間なのでしょう？　所謂、通常学級で言うところの、地域によって多少の差はあるようですが、１校時４０分の「時間」のことでしょうか？　でもそれは、教科教育上の有効性からの時間であって、決してことばの教室（通級指導教室）で行われる様々な指導内容や形態の観点から決められた時間設定ではないのです。なぜ35分でいけないのでしょう。なぜ90分でいけないのでしょう。それこそ「時間いっぱい」指導しようとして、その為に子どもとの関係が崩れた指導を見せていただいたことがあります。「あそこの活動でやめていれば（活動開始から30分頃）次回の通級が楽しみになるような雰囲気でお別れができたと思うよ」という状況もあるのです。校内通級の場合は、途中で学級に戻すわけにはいきませんので、それはそれは気を使いました。

教科教育は、基本的に一定量の内容を１年間で教えるというノルマの指導です。ところが、ことばの教室での指導は、ノルマではありません。そこが根本的に異なるところです。

側音化構音の問題であっても、どんな問題でもあっても、相談にいらしたその日に解決しても構わないのです。むしろそう努力するべきセクションだと思うのです。毎日通級してもらい、一回の通級時に60分、90分と指導し、それで通級回数が減るのであれば、どんなにか親は喜ぶでしょう！　問題を自覚し直す意欲のある子なら心から喜ぶと思うのです。

所謂50音でいうところのイの段とその拗音の側音化構音で、年長児から６年間同じ先生から指導を受けた女子児童がいます。６年生になって梅村が担当しました。一回目の指導（40分間）時に、取敢えず、自分の名前に入っている側音の「り」が言えるようにしました。指導が終わって、待合室で母親と目を合わせた瞬間に、「名前がチャンと言えたよ」と大喜びでした。母ももう一回聞かせてと、涙ぐんでいました。そんな母の隣で更に一言。「要するに、前の先生は指導が下手だったっていうだけの話よ！」と天井を見上げ、涙を堪え、絞るように言い放ったのでした。気を取り直した母親は「実は、丸６年練習してきて治らなかったんだから、６年生になるに当たって、もう１年通ってみよう。それで治らなかったら諦めようと話し合ってこの日を迎えたのです」としみじみと話されました。

そして、母からの一言。「この６年間は何だったのか！」

「諦めるために通級する」こんな悲しくも淋しい話はあるでしょうか？　このような子の為に、ことばの教室は存在するはずなのに、です。

こんな事は、絶対にあってはならないことだとは思いませんか！？

大切なことなのでもう少し続けさせてください。

ある学校の公開研究会でのことです。ことばの教室の公開授業がありました。構音指導です。とても

良い雰囲気で指導が進み、新しい構音も少しずつ形成され、良い音が出そうというところで、残念、時間になってしまいました。しかし、その先生は、５分ほど延長し、良い音を導こうと試み、その結果、出たのです。その授業の事後研が行われた際に、ある先生から、「授業というのは、始めのチャイムに始まり、終りのチャイムで終わるように授業を組み立て、実施できるようにするのが良い授業、従って、今回の授業は、子どもとのいい関係の中で進められたが、５分延長したのが残念だった」というものでした。この先生の授業観に従うならば、本時の指導目標が、『単音[ｓ]が言えるようにする』の場合、この指導時間内に『うさぎ』が言えるようにするなんていうことは、言語道断、指導目標に全く合致しない訳ですから、全く下手な授業ということになります。なんか、変ですよね。

さらにもう一話。

別の時の公開授業のことです。指導案に、[ｓ]の指導計画が載っていました。子音[ｓ]を出すために、歯間音から[ｓ]を導く指導を５教時、その後、歯茎で摩擦させて[ｓ]を導く指導を５教時、その後、単音節 [su] の指導とありました。なんか、変ですよね。

１教時の指導で「さ」なんて言えるようにしたら、先の先生の授業観に従うならば、とんでもなく下手な授業ということになります。もし万が一、５教時でも歯間音から[ｓ]を導くことができなかったときはどうするのでしょう？　計画通りに単音節 [su] の指導に移行するのでしょうか？　[ｓ] が出ていないのに、[su] なんて出せる訳ありませんよね。では、計画通りに指導ができていれば、良い指導なのでしょうか？　簡単に [ｓ] を導く指導法を知っていれば、とでもない計画ですよね。そう思いませんか？

「授業時間いっぱい」というインデイックスから、色々考えさせられました

子どもを観察する目が自分は不足していると痛感しました。一歩一歩、教わったことを胸に前進してまいりたいと思います。次年度以降も講座を是非開催していただきたいです。どうもありがとうございました。

11A

教育として、学校で子どもと関わり、ことばの通級担当としてすべき事は、ＳＴの先生方がされることと、少し違うのではないかな…と感じつつ指導してきました。そのあたりを梅村先生が言葉にして語って下さったので、その気持ちはまちがってなかったんだなと思えました。また、子どもが来たその時から、帰る時別れるまでが指導、どんな時にも、こちら（教師側）には意図があり、でもそれは子どもに悟らせず、一緒に楽しむこと、など私がしたい！！と日々思っていることが、度々お話に出てきて、そう！そう！とうなずきつつ、決定的な違いは、絶妙なタイミングやりとりで、引っ張っていかれていること。動画を見させていただいて、ほんとうにあざやかなやりとりだなぁと。丁寧にされるところは丁寧に。一緒に大笑い、でもそこで力を、ふーーっと抜いたあとは、一気に集中を高めて目と耳に集めて、それを舌へ口へおくる。を自然に子どもができる。という“かんきゅう”がすごいなと思いました。また、単語→語頭→語尾→語中→文→会話と、はじめは“言葉だけ”まねしていたつもりが、いつのまにか、ぶわーーーっとできるようにしていくテクニックが、本当にあざやかだなぁと。同じことをしたい、できるようになり

たいと思った時に、今、困っているなと気づいたのが「今日のめあてを確認してから学習に入る」という、これだけははずさずにしないといけないよ、大事だよと言われていることを、どう扱うかということです。学習のはじめのあいさつにしてもそうです。「これから…」というあいさつに関しては、梅村先生は“いらない！”と書いておられた文を読んで、今日お話を直にきいて、動画を見て、これなら確かに、いらないと思いました。また、姿勢については、目からうろこではありませんが「楽に声が出せる姿勢」全くだ！と思い、何のために、何が目的かを見失わずにすすめる必要があることを痛感しました。ということで、上記の「めあて…」のあたり、何となく自分の中で答えはでつつあるのですが…おもいきってできないあたりは、自分の力の無さを感じているからであり…もどかしいです。

※　下線の意見について：一人の子どもが発達していく過程において、「その子が**必要とすること**は、どの立場からであっても基本は**同じ**である」と思います。ですから、「教育として、学校で子どもと関わり、ことばの通級担当としてすべき事は、ＳＴの先生方がされることと、少し違うのではないかな…」とは、考えられません。「目の前の子どもに必要なこと】に違いがあるはずはありませんから。職種の違いではなく、個性の人間観の違いなら、それはあると思います。

12A

今回は、このような指導事例を通しての研修をありがとうございました。

音を導き出す指導を見せていただき、子どもと指導者の関係づくりや、子どもが「できた」「やってみたい」と意欲的に指導に向かえることの大切さを強く感じました。

これまで、単音→速読音→無意味音（語頭・語尾・語中）→単語→文章→会話と順序を追ってきたので、梅村先生のように、出やすい単語を用いて、語頭・語尾・語中そして、般化へ向かうというのが、頭で理解できても、実践できるかはまだ不安もありますが、少しずつチャレンジしてみたいと思いました。

今回のビデオの中には、今までや現在来室している子の事例と似ているものもあったので、もう一度考えながらやっていきたいと思います。

舌の動きのマヒや舌小帯の短い子についても「動きにくいな」「短いな」だけではなく「こうだから…」と根拠をもってアセスメントをして指導できるようになりたいと思い、また勉強しながら指導にあたりたいと思います。

また、構音指導の場面のビデオを通しての研修を受け、これまでの自分の指導を振り返ると、音はある程度正しくなっていたが、口腔内がどうなっていたかというところまでは見れていなくて、不完全だったこともあったのでは…と反省しました。どうしても音だけで判断することが多く、口腔内や舌の動きについて、あまり理解ができていないことや、医療との関わりに弱いことも改めて気づきました。その点についても勉強し、どのようにしていけばよいのかも分かって指導できるようになりたいと思います。ありがとうございました。

13A

梅村先生、２日間に渡り、熱意あふれるご講義をありがとうございました。特に、側音化構音の指導における、実際のビデオ視聴に加えて、リアルタイムの解説が参考になりました。ユーチューブだけでは分からなかった、細かい配慮や、指導の意図、見取り【？】などは、まさに実地でしか研修できないものでした。大きな収穫となりました。

舌あそびから、誘われるようにしていつの間にか正音を導き出す場面などは、まさにマジックで、遊びの療法【？】の奥深さを見ているようでした。子どもはまさにお釈迦様の手のひらの中で、あそんでいる孫悟空のようでした。私は、どちらかというと子どもに主体性を乗っ取られがちになってしまうので、もっと、活動の全場面で意図を持ってかかわらなければと反省いたしました。子どもの逸脱する瞬間を逃さないようにしたいと思います。

舌の練習なしに側音化の指導をする場面を、初めてつぶさに観察【？】しましたので、早速、二学期から挑戦してみたいとは思いますが…本校は幼稚部があるため、小学部で扱うお子さんは、吃音と歪みがほとんどです。２年から開始するお子さんもおり、自覚もたっぷりです。うまく、共同作業できるかな…と不安もありますが、楽しみでもあります
２日間ありがとうございました。

14B

昨日のAMで見【ら】れなかった吃音に対する指導について、小２年トシヤ君に対するＡ先生(スーパーバイズあり)が視聴したいです。

本日、見【ら】れない場合はホームページでみ【ら】れるか、どんな内容なのか、説明頂けるとありがたいです。

本日の中３の男の子(まともな自己紹介ができないことが主訴の)に対して行った訓練の内容を教えて下さい。(「Ｓ」行に対して)

今後、吃音に対する研修を実施して頂きたいです。

15D

構音指導に関して全くの初心者です。(この関係の指導にあたった経験がないです)数年後には、ことばの指導をしてみたいと思い、参加させていただきました。

映像で舌の動きを見せていただいたり、ご指導の音声、動きを拝見したりすることで、大変分かりやすく学べました。しかし、自分の勉強不足の部分が大きく「これではいけない」と反省する面ばかりでした。自分の中の学びたいという気持ちを刺激してもらえたことに、感謝しております。まさと君の変化には感動を覚えました。こんな指導ができるように、勉強を進めたいと思います。

16B

今までの訓練は、鏡の前でＭＦＴを練習してから、ことばの練習に取り組むことが多かったので、先生の指導の動画を見て、大変驚きました。子どもとの関係づくりを丁寧に時間をかけて行っていたこと、子どもが本当に楽しそうに取り組んでいたことなど…

※　必要な子にはMFT も行います。MFT を行うときは、鏡を使うこともあります。MFT は、訓練目標、導入の方法によっては、構音(点)指導に重大な支障をもたらすことがあります。ご注意のほど！

また、今回、学校の先生との交流もあり、子どもとのコミュニケーションのコツなども、アドバイスを頂けたので、自分の、子どもへの関わり方を変えていきたいと思いました。

先日、小学校３年生の男の子が来ました。聞こえとことばの教室に長く通っていて、通級に行くことになったので、聞こえとことばの教室は卒業し、当院で発音【構音？】練習に来ることになりました。

キ→チ、ケ→チェの置換です。漸次接近法で指導しようとしました。

「キ」の誘導は、くー　→　く いー　→　くいー　→　くいー　のようなイメージで音を呈示していたのですが、途中から「ク？キ？どっちの音なの？」と言われてしまいました。どちらの音でもないことを伝えたのですが、「ワカンナイー」と言っており、混乱させてしまったようでした。どのような伝え方をすれば良かったでしょうか？

※『「ワカンナイ」って分かるって凄いね！　分かんないように言ったんだよ。だから、先生と同じように、わかんないようにマネしてねー』かな。このような事があるので、幼児の場合は、「じ（文字）にかけないおとのまねっこ」や「へんなおとのまねっこ」などのネーミングにしているのです。この件、会場で質問して下さると良かったですね。先生は、どのように模倣のルールを子どもに伝えたのでしょう？　そして、構音指導目的音の指導に入る前にそのルールを別の音で試し、子どもがそのルールを理解したのか確認しましたか？　つまり“まねをする”ってどうすることなのか、どう“まねをする”と褒められるのかが、その子なりに分かるような説明になっていたのか、振り返ってみましょう。

17A

17 日、18 日と二日間、大変お世話になりました。

具体的な指導方法だけではなく、講和の中での先生のお考えをたくさん聞くことができて、ことばの教室担当者としての責任の重みを感じたり、楽しさも思い返したりしました。

子どもたちを観る時にも、音を聴くだけではなく、構音の前から、舌の動きを観ていくことなど、やっていかなければならないこともたくさん学ばせていただきました。

まだまだ、自分の知識、技術力の無さを痛感し、学ぶ中で、目の前の子どもたちや、お家の方々と向き合っていきたいと思います。ありがとうございました。

18A

ことばの教室を担当して７年目です。初めて異動して、新しいことばの教室で仕事をするようになりました。場所・人間関係・衛生環境・校務分掌、子ども、保護者、全て新たになり、アタフタした一学期が終わりました。これまでは、４人の担当者のチームワークもあり、自分の力量が低くてもなんとかなっていたのですが、新しい教室は、ほとんどがひとりプレイ。研修に出て自分の力をつけないと、担当している子どもや毎回連れてきてくださる保護者に申し訳ないと思っていました。指導にも行き詰まりを感じていました。

ある先生が始められた“和の輪の会”で毎月相談にも乗っていただいています。そこでもよくわからず、疑問がわくこともありました。今日聞かせて頂いた研修で、その疑問の一端が解けたようで、二学期からの指導を変えていきたいと思います。やってみて、自分がどれくらい分かっているかも分かると思うので、その後は、勉強会に一度でも参加したいと思っています。

日常の忙しさに流されないように、というのが、今、私の自分に対する戒めです。たくさんの指導されているビデオを見せて下さり、ありがとうございました。

19A

大変、密度の濃い２日間でした。論文、レポートを読み、スケッチブックに書かれた花丸から指導場面を想像して、この講座に臨みました。実際にたくさんのビデオを見て、梅村先生の生のお話を聞いて、いろいろなことが体にすとんと落ちました。はるばる北海道から来た甲斐がありました。「子どもにとっては遊び、指導者にとっては指導」本当に楽しんでまねっこし、ほめられて喜び、先生と子どもの共同作業で作り出される、すてきな空間。これから、一層研修に励み、「子どもを育む指導」ができるように、人間磨きもしていきたいと思います。

２日間、ずっとエネルギッシュにお話して下さった梅村先生のパワーも見習いたいと思います。ありがとうございました。

（初対面で同室になった方とも、とても良い交流ができました。ありがとうございました。）

20B

今回２回目の参加ですが「遊び」でのやり取りを通して、練習にどれくらい乗れるお子さんかどうかを見極める視点、子どもが注意ひきをした際のスルーの大切さなど、教科書には載っていないけれど、大切なポイントだとあらためて身に染みました。

また、自宅練習について、「つい、厳しくしちゃって…」というお母さんのお話をうかがい、ひやっとして中止した経験があったため、「基本的にはさせない」というご意見をうかがえて、安心しました。また、安易に宿題を出したことを反省しました。

現在、構音の指導の必要性のあるお子さんを担当しておりませんが、ビデオで拝見した初回時のお子さんとのコミュニケーションの取り方など、すぐに他のお子さんの指導にも応用できる！と思い、参加して本当に良かったです。今後ともよろしくお願いします。

21A

自己負担でも来たかいがありました。

書籍や日言研、はじめの一歩で得た知識とはまた違って、誤り方の種類に関係なく、しかも音作りから会話レベルでの習得をスピーディーに進めていっているという方法に驚きました。

ターゲット音については、複数の音に誤りのある子はどうしたらいいか、「遠いところから目指す音に接近していく」ために具体的にどの音の順序で真似させたらいいのか、実際の指導の場面では一人一人悩むのだろうと思いました。録画をし、しっかり見直しながら、指導をしていかなければならないと思いました。

「様子を見る」ではなく、早期に関わって改善につなげられるように指導力を身に付けなければと思いました。来年も是非勉強したいと思います。ありがとうございました。

22A

〇〇小には、通級のことばの教室が２つあり、自校通級、市内に加え、市外こども園からも断らず受け入れを行っています。もう一人の担当者（および長年にわたる）の方針。県の西部地域には、他にことばの教室がないからです。

私は、４月から担当となり、しばらくの間もう一人の担当の指導を見ながら研修というのは、梅村先生と同様でした。（中身はともかく）

「家ではべらべらしゃべる、他ではしゃべらない」という緘黙（的）な子どもを担当しています。

その子を理解しようといろいろ取り組み、少し近づけた気はしますが、有声音は出していません。今日のフル視聴のやりとりや、先生のお話を聞いて、大きく参考になりました。

側音化の子も一人担当していて、先が見えない気がしていましたが、構音指導は同じというお話に、納得できました。

「まねっこ」で、ねらう音に遠い音から次第に近づくように進めるなど、即、この音なら、このあたりからなど、ピンと来ませんが、学習や経験を積むしかないなと感じました。

ありがとうございました。はるばる来た甲斐がありました。

先日、菊池良和先生のお話をお聞きしました。

23A

指導事例をたくさん提示いただき、勉強になりました。2019 年前期指導講座に参加した時に見せていただいた事例を、再度お示しいただいたものもありましたが、先生がおっしゃる通り、繰り返し見ることも、また勉強になりました。

構音指導では、指導音をイメージさせないために、できるところとできないところの境目を指導していくということを学びました。指導者は、常に意味ある行動をとらなくてはいけないということを、肝に命じておきます。

梅村先生の指導の様子を拝見し、お話を伺ったのは、今回の講座で２回目ですが、今後も開催頂けたら、是非参加します。

途中、演習をはさみましたが、面白かったです。理論に基づく実践で、納得解を示していただきました。

24A

沢山の情報をいただき、大変勉強になりました。３人部屋のお泊りも、楽しく過ごすことができて良かったです。同じ市内の先生も来たかったそうですが、案内が無かったようで、参加できず残念そうでした。山形の情熱を市内の先生方にも伝えたいと思います。

今回私が参観したのは、「し」が「ひ」になるお子さんを、どう指導しようと悩んでいたからです。かけ算九九の七の段、四の段が「ひいちがひ…」と。

転校してきたその子は、かけ算を始めるまで、ことばの教室につながりませんでした。２月に通級がスタートして半年。「Ｓ－」「すー」「すぃー」「しお」あたりはまねっこできるようになりましたが、今後、どのような方向ですすめていったらいいか知りたいです。「し」になる前段階の音（あいまいな音）を知りたいです。

２日間、長時間にわたり、ありがとうございました。きめ細やかに対応して下さったスタッフの皆さん、お疲れ様でした。

25A

実際に指導されているビデオを見ながら、詳しく教えていただき、たくさん大切なことを学ばせて頂き、大変ありがとうございます。

今回は、吃音のあるお子さんや舌が動きにくいお子さんについても教えて頂き、さらに深く学ばせていただきました。

一番大切なことは、指導は子どもと出会った瞬間から始まり、別れるところまで続くということ、そして、その時の子どもと、どのような関わりをもつか、コミュニケーションの中で指導することが大事であることを、改めて心に刻むことができました。

これまでの自分の指導を振り返ると、子どもにも保護者にも、申し訳ない気持ちでいっぱいになります。今週から通級が始まるので、学んだことを生かせるように、心して指導に当たりたいと思います。

また、機会があれば、是非参加させていただきたいと思います。このような講座を開催して下さったことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

26A

一日目、“鏡に向かうのではなく、子どもと向き合っての指導”これは昨年、講座を受けてから（それまでは、最初の数分向き合って、構音指導は鏡の前）ずっと向き合っての指導をしてきました。

最近、芸人の塙さんが書いた本を読みました。その中に、M－１でしっかりネタをつくって、コレという漫才をしても思ったようなウケがない時に、先輩芸人に言われたことから気付いたことがあった。それは、客席だけを見てやっていたこと。相方とも向き合い、客席と三角形の関係を作り上げていくことが大切だと。関係のない話ではないなと思いました。

今回も、根拠のある「観取り【?】」はもちろん、子どもと関わる上で大切なことについても、たくさん取り上げて考えさせていただきました。（前々回の感想で、初任の先生にも伝講したい云々と書きましたが、残念ながらその先生は、崩壊して？辞めてしまいました。）

また、私はまだ担当していない吃音についても、たくさん取り上げてもらい、実際の指導の映像を観ることができて有難かったです。

資料、映像、質問、ニーズに合わせた準備も当日の夜もして下さり、本当に感謝です。その熱い思いに応えるためにも、通級する児童が１時間でも早い終了を目指し、日々精進したいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

27A

子どもの症状の見取り【?】の大切さを学ぶことができました。

梅村先生の「長期目標・短期目標」は必要でない。という考えがとてもよく理解できます。毎時間毎時間、子どもの状態は変化していくからです。しかし、本年度から文科省より「個別の指導計画、支援計画を作成し、その計画に対しての保護者からの同意の基、指導を始めるように」との指示がでました。ということで、作らざるを得ない。というのが実情です。

Q　側音化構音で、どうしても[キ][ケ]音が最後まで歪んで残ってしまいます。それは「直ったように見えても、他のイ列音がきちんと直り切っていない」という事なのでしょうか？[キ][ケ]音の指導の様子（導くまでの様子）を見せていただきたいと思います。

※　2022 構音指導講座では、再々度側音化構音［ke］の音つくりを解説したいと考えています。

２日間に渡って、先生の熱意と私達に対する思いやりを感じ続けました。ありがとうございました。

※　「長期目標・短期目標は、必要ない」に一言。全ての指導（問題）に『必要ない』訳ではありません。誤解なきように願います。

様々な構音に側音化構音が認められた子がいます。でも、５回の指導での終了や１５回前後の指導で終了することもあります。とすれば、『長期目標』の設定にどんな意味があるのでしょう？　特に、機能的構音障害の場合の『短期目標』は、指導１回目での終了です。それが、親や本人の願いです。

結果的に１０回を超えることもあるのであって、指導１０回での終了を「長期目標」にする訳ではありません。

しかしながら、「長期目標・短期目標」をしっかり踏まえて指導を行う必要がある問題や場合があります。器質性構音障害や吃音、認知上の諸問題等々、ことばの通級指導教室で、どのような問題までカバーするかは考えなければなりませんが、これらの問題には、「長期目標」は必ず必要と思います。

28B

貴重なＶＴＲと解説を聞き逃したくないと思っている為、できれば休憩については、長過ぎず入れて頂けると良かったかと思いました。又、やはりもう少し交通の利便性の良い場所での開催だと有難かったです。

講義の内容については、貴重なＶＴＲを見ることができ、参考になりました。又、１日目の、びいちゃん(女の子)のＶＴＲで指導者の影響を受けてくれる子だから、即、訓練へ移行されたと思いますが、影響を受けない子だったら、何をするのか、どんな訓練につなげていくのかという点については、お伺いしたかった点です。

※　影響を受けない子っているかなぁ…人格的な問題がない限り。影響の与え方の問題？　いるとすると、構音指導を通して、そのことが改善するかの検討が必要ですね。…でもやっぱり存在しないと思いますよ。そんなことよりも、どうして直線的に「影響を受けない子」に『何をする？・どんな指導？』と考えるのでしょう。それ以前に、『この子とどう向き合うのか』を考えることが必要だと思います。

　生きている子と関わる以上、どこかに関われるチャンスは、必ずあります。そのチャンスを見逃す理由の多くは、『関わっている』とする基準を指導者が持っていて、その基準に沿わないと「関わっている実感」が持てず、チャンスを逃すことが多いようです。己の『関わっている実感の基準』を一旦留保し、子どもの側から「この子にとって、自分（指導者）と関わるって、どんなこと？」とお考えになってみてはどうでしょうか？

又、吃音・緘黙傾向の子どもたちへのアプローチも拝見して、参考になる点が多く、又、反省することが多かったです。構音の重複例ではないのですが、３姉妹の緘黙（いずれも次女）が２組、吃音は５～18 歳と幅広いため、個々を良く観察して対応したいと思いました。

吃音の共調同時音説のＶＴＲがとても良かったです。今回の講座の吃音も開催して頂けたらと思いました。【 2022 吃音指導講座を開催します】

29A

２日間、内容の濃い研修会を開催頂きありがとうございました。後期のみの参加でしたが、参加させていただいて良かったです。

梅村先生のご実践を細やかな視点で提供していただき、目から鱗でした。やはり、指導の実際を見せて頂いて、論文を読ませていただくだけでは気付けなかった、子どもへの関わり方や、間の取り方、何より、梅村先生の熱い思いに触れることができました。ことばの担当になったものの、校内支援や発達障害との併用級ということもあり、専門が多岐に渡ることで、非常に頭の中が混乱して１学期を終えていたのですが、梅村先生のご講義で、ことばの分野における自身の知識の無さを再認識し、とても恥ずかしくなりました。お陰様で、現在の自身の課題を整理して、２学期が迎えられると思っています。

また、ご講義全般を通して「人格形成」が教育の原点ならば、構音障害を直すことだけが私の仕事ではなく、子どもに関する必要な情報や実態を丁寧にアセスメントしながら、子どもの自立を促す自信をつける為の適切な指導をしていきたいと思いました。梅村先生のシンプルな教材・

教具は社会般化が念頭にあるからだと理解し、質と量のバランスを適宜考えねばと思っています。

また、梅村先生のお話や論文の中では、実態把握には、運動状態、粗大運動や巧緻運動についても触れられており、そして、臨床動作法を取り入れたアプローチでもあることがわかりました。私自身の経歴から、理学療法や作業療法の学びを強みにして、実態に応じて、より積極的に取り入れながら、楽しい授業を子どもと共に作っていきたいと思うことができました。梅村先生の個性と、支える奥様に感激もし、自分がどんな指導者になりたいのか、目の前の子どものどのような変容を期待したいのか、そのために何が必要なのか、どんな授業づくりをしたらよいのか、一人一人の子どもについて考え直していきたいと思います。

30A

これから、幼児ことばの教室を開設するために、担当を命じられ、この度、様々な勉強をするため、この講座に参加させて頂きました。

ネットで、先生のレポートを前もってみせて頂いたりしましたが、実際に、映像を見せて頂きながら解説頂くことで、少し理解できました。

いかに子どもを見て、子どもの様子をとらえ、子どもの性格・リズムをつかみながら、指導者にあわせていけるようにもっていくこと。

すべての指導者の行動は、裏にしっかりとした意図があり、先を見通して、それをするための前段階の準備をしっかり行うことを学びました。これから、指導をする時に、とても必要なことと感じました。

まだまだ、たくさんの知識と技術を身につけなければ、先生のような指導は出来ませんが、初心をしっかりもって、これから頑張っていきたいと思いました。ありがとうございました。

寝ずに資料を作って頂きましたこと、本当に感謝申し上げます。

31A

今年の１０月に、ことばの教室（幼児）を開設予定で、まだ指導を行ったことはありません。今、いろいろな研修に参加させていただいたり、本を読んだりと勉強中です。

今まで、〇〇〇研修会や県内のことばの教室で指導方法を学んできたが、先生の指導の方法を学ばせていただき、知っていることと違い、驚きました。全てのことに意図があり、そしてそれを遊びの中で楽しみながら、という先生の指導の方法がすごいと思いました。まだ指導をしたことはありませんが、子どもも私も楽しくできるような指導をめざしたいなと思いました。

32A

昨年の夏に続き、２回目の受講でした。昨年終わった後に、先生のマネをして指導をしてみましたが、表面的な所しかマネできておらず、結局子どもに振り回されてしまう指導（しかも鏡も

使っている）をしていました。今回、関係づくり、子どもを観るという視点に少し立てて、自分の指導がいかに恥ずべきものだかを思い知らされました。

鏡を使うことについて、先輩から「子どもが舌をどのようにつければ良いか分かってもらうため、家でも自分でチェックできるようにするために鏡を使った方が良い」と言われ、それもなるほど…と思っていたのですが、梅村先生は、それでもやはり使わない方が良いと思いますか？

※　勿論です！！　講義で何回か指摘をしました。基本的に“子どもが舌をどのようにつければ良いか分からない”から側音化構音になったわけではありません。いいですか、鏡で見て直ちに正音の構音運動ができるならば良いです。親と鏡を見て練習する度に側音になるということは、側音を強化する練習になるのですよ！　ですから、正音での構音運動ができない段階での家庭での練習は、害しかないのです。

さらに、鏡を使用するということは、「これから［tʃ］の練習するよ」と子どもに宣言する、知らせるわけです、これはその時点で『側音の［tʃi］』をすでに誘発することになるわけですから、子どもとの関係性からだけでなく、構音(点)指導の上からも望ましいことではありません。

今回の講座での側音化構音のある年中さんに行った指導は、ご覧にはならなかったのでしょうか？舌の体操もしていません。［ｉ］も側音ですが、［ｉ］からも指導は行ってはおりません。ましてや舌を平らにする指導も行っておりません。でも、綺麗な、全く普通の構音運動の「ち」が言えるようになっていたでしょう。構音(点)指導２回目で。

幼児の構音指導で必要のない指導は、それ以上の年齢の子の構音指導にも全く必要はないのです。

また、初対面で、小学４年女児の側音化構音［tʃi・ʃi］に対して行った構音(点)指導の視聴では、指導開始から20分間弱の時間で、綺麗な、全く普通の構音運動の「し」や「ち」が言えるようにした指導も見ていただいたと思います。

どうですか？　それでも、先輩からの助言は、妥当でしょうか？

※　2022≪前期≫構音指導講座でも、小学４年女児に対して行った構音(点)指導を視聴していただく予定です。20分間弱の時間で行われた、構音(点)指導の『始まり』から『正音の形成』までの指導について、指導のポイントを解説したいと考えています。

次回、また講座を開いてくださるなら、子どもとの関係づくり、子どもの見方について、じっくり学びたいです（いろんなケースを用いて）。吃音についても学びたいです。

また、可能なら駅に近い場所でやっていただくか、始発最終バスまでの時間内で講座をしていただけると大変ありがたいなと思いました。また、今回は、やや間違えた時の雰囲気が少しキツいな、安心して間違えられないなと感じました。【それは、大人ですし、給料も貰っていることだし、……ネ】

今回学んだことを、実際に生かし、また、梅村先生にお会いするときまでに自分がどう変わるか楽しみです。

33A

研修会で学んだこと

① 吃音は、技術力がないと吃音を悪くしてしまう。

② 構音は、音の誤りの自覚がない時、意欲がない方が早く治る。

③　置換・側音化の指導は、両方とも変わりなく、誤り方からの指導、導き方ではない。
④　最初に、障害以前にどんな子（人）であるかを理解することが大切。また、子どもが先生に合わせられるかを見極める。【どういう意味かなぁ？】
⑤　子どもと教師の距離では、まねをする方が楽しめる関係を作る。【どういう意味かなぁ？】
⑥　子どもの記憶は「何をやっていたのかわからなかったけど楽しかった」教師は指導に徹する。
⑦　構音指導はコミュニケーション。子どもと向き合って（子どもが）どんな気持ちで言っているのだろうか？分かって進めることが大切。鏡は不自然。
⑧　知的障害と誤った判断をされた子どもが、先生の指導で、国語の教科書を朗読されている場面までの映像を見て、先生の言われた通り「自分の気持ちをわかってほしかった」「言いたかった言葉」であり、私たちは、その聞こえない声、聞こえる声を大切にすること、そしてこのことは私たちの義務であることを肝に銘じた。
⑨　構音指導は、使える場を保証する、子どもが変わっていく、人格を変えること。
⑩　構音の中で、発達障害の子を落ち着かせていく、吃音の中でも構音指導で落ち着ついていける視点、指導方法、技術が必要。
⑪　その他
これからも学んでいきます。
大変勉強になりました。明日からの実践に生かしていきます。

34A

構音指導の技術をつけたいと思い参加しました。自分の耳を鍛えること、構音指導に必要な構音点の位置等、どのように子どもたちに伝えたらいいのかを学びたいと思っていました。「か・けっ・こ」の発音のスロー映像、楽しみながら身につけていく子どもたちと先生のご指導の様子を見ることができ、本当に参加してよかったと思いました。そして、子どもと通級担当者との心的距離の取り方、子どもを理解する力の大切さを改めて感じました。

今担当している子どもたちのことを思い浮かべ、この子たちと台形的関係が築けているか振り返り、行き詰っていると感じているケースは「指導しなければ～」のオーラが全開だったから子どもは引いてしまっていたんだろうなぁと気がつきました。

夏休み明けからは、通級担当者として、子どもたちとの関係を見直しつつ指導していきたいと思いました。

音を聞いて口腔内【構音運動】を想像することを今後の自分の課題として勉強を続けていきたいと思います。

子どもの構音の状態を見てタイミングを逃さず指導できるようになるには、どのように研修を積めばいいのか、何かアドバイスがあれば教えていただければと思いました。

※　簡単です。自分の行っている指導をビデオに録り、『知らざるは、末代の恥』の心構えで、歯に衣を着せないスーパーバイズを受けることです。または、歯に衣のないスーパーバイズを受けることです。

古くて済みません。そして、“批判“を“非難”と勘違いしない事です。それから、“自分の指導を見せ、解説してくれる先輩”を探し当てることです。梅村の経験からです。

梅村の50年とちょっと前、千葉市立院内小学校でのことです。二人の先輩がいます。古い話です。

お一人の先生は、山岸洋子先生と言います。当時、NHK教育テレビの番組「ことばの治療教室」で主に発音の問題について解説したり、耳の訓練の指導を見せるなどのことをされることもありました。

子どもの指導、学校の仕事、NHKの仕事のお忙しい中、山岸洋子先生からは、『梅村が自分なりの指導案を起こし、それに基づいた指導をしたあと、歯に衣を着せないスーパーバイズを受けながら次時の指導案を作成します。そして、その指導案で指導を行い、またまた、歯に衣を着せないスーパーバイズを受けながら次時の指導案を作成します。そして、その指導案で指導を行います。そして、またまた歯に衣のないスーパーバイズを……』その繰り返しを、成長の無い梅村に約３か月間も丁寧に行って頂きました。

もうお一人の先生は、教室主任の行木富子先生です。「 サイコロ 一つあれば、構音指導の最初から最後までできる 」と言って実践して見せてくれた大先輩です。この言葉をお聞きしたとき、「どのようにして会話での指導やゲームの嫌いな子の指導をするのだろう」などと、実に浅はかなことを考えたものでした。まだ、その境地には、残念ながら至ってはおりません。現在も自分の指導を振り返るときの基準とさせていただいています。

全国言語障害児をもつ親の会（当時）の全国大会では、NHKとの共催ということもあり、ある時期、東京大会や地方大会の際に、公開指導を行っていました。その公開指導を担当していたのが行木先生でした。東京大会の時でした。場所は、紅白歌合戦をやるNHKホール。参加者は全国から約1000名を超える数。ゲームを通しての発音の練習の場面で、「先生、それさっきやった！」と子どもの声。当時のNHKは、子どもとのゲームでさえ、本番と同じゲームのリハーサルを行っていたのです。子どもは素直です。でも先生は、「そうだね……」と言いつつ、リハーサルと同じ指導（ゲーム）を楽しく進めたのでした。1000人以上の前での指導。とてもできません、今の梅村には。いつかは両先生を越えたいと思えど …… です。

このようなお二人の先輩先生の指導を、約４か月間子どもの指導を担当せずに、じっくり観せていただきました。勿論、とても真似のできるような指導ではありません。ですから、その指導の『真似ができるか』『できないか』とか、そんな大それた事は、考えたこともありません。ただ、「思っていた」ことは、『どのようなことをすれば、どのようになれば、あんなに楽しく、子どもが生き生きと活動し、発音してくれるのだろう。活動としては実に単純な活動である耳の訓練に、子どもが目を輝かせて参加している。どうして？　どうして？』、ただただこのような状態でした。今、言えることは、この「お二人との出会いがなかったら、今の梅村も無い」そして「お二人の当時の指導と比べたら、梅村の今の指導は、まだまだだな。50年以上の経験をしてもなお、遠い目標。」ということです。

35A

鏡を見ながら“口のうんどう”…やってしまっていました。

４月の連休で、先生のお話を聞いて、［イ］や舌のトレーニング？などにこだわらず側音化構

音指導をしてみたら、二人の［チ］がきれいに出るようになり、びっくりです！

ヴァンライパーの構音の指導を以前勉強していたのに、なぜ、［イ］の指導に時間をかけたり、“口の運動”をしてしまっていたのか … 不思議です。

最近、そんな研修を多く受けていて、自分も疑問を持たなかったことを反省しています。

演習形式のいろいろな研修会に参加して自分の力をつけていく大切さを、とても感じました。今まで遠いから…とか、（日）だから…と行くのをやめていた研修会に参加していこうと思いました。

側音化構音で、入級当初、［イ・キ・ギ・シ・チ・ジ・ニ・リ］【恐らく、[ヒ]も】に歪みがある児童で［ニ・リ］だけが般化せず、２年目に入ってしまった４年生を担当しています。[r］の音が、ラララ…、レレレ…など、はやく舌を打ちつけることができず、下顎も一緒に動いてしまうお子さんです。

※　講義でも触れましたが、出来ないことを頑張らせるのではなく、出来ることの積み上げで変化させていくと、子どもも指導者も緊張しないので、割かし目的に合った動きをしてくれるようです。

例えば、**どのくらいゆっくり**舌打ちをしてもらうと、“下顎が動かないのか”を探し出し、次に“動かない状態を維持しながら”舌打ちをしてもらうと、結果として速く舌打ちしても動かないようになるのではないでしょうか。でも、この“舌打ちの指導”は、何のための指導なのでしょう？　このお子さんの舌にはマヒがあるのですか？　あるならば、器質性構音障害ですよね。器質性ならば、側音化構音のみの構音障害であるはずはありません。

あくまでも側音化構音としての［ｒi］の問題ならば、“舌打ちの指導”は、多分、恐らく、きっと必ず、必要ないと思いますよ … 。

特に、[リ]は、子ども自身で会話中[レィ]と言って意識することで導いているのですが、「気を抜くと前の[リ]になる」と自分で言います。[ニ]は、会話中[リ]より歪む頻度が少ないですが、構音点が後ろに行きがちで[ンギ]っぽくなることが時々あります。

全ての音を完全に正しく言っているかというとそうではない状態なので、どうすればよいかと考えています。舌の盛り上がりが、やはりまだあるからなのでしょうか … 、どうすればいいでしょうか … 。

※　「舌の盛り上がり」は、全く関係ありません。「舌の盛り上がり」に対する指導は、もともと全く必要ないのですから。

36A

実際の指導の様子を映像で紹介していただけたのが、他の研修会と違い、とても説得力がありました。また、「給料もらっているんだから、できる【言える】ようにする責任がある」というお言葉にも納得です。正直いって、構音指導については分からないことばかりで、用語も休憩時間にスマホで調べるという有様でした。

※　「今の用語を説明して下さい」と演者の話を遮って質問して下さっても良かったのですよ。

それでも、この２日間で言語指導の勉強をしたいという実感を得ました。

一番のメリットを子供が受けられるように、なるべく早く治せるように、指導力を身につけたいと思います。

（※ DVD を流しているときにマイクで語ると、マイクの声と DVD の音声がどちらも何を言っているのか分からなくなるので、その点についてはご一考されるとよろしいと思いました）

※　ご指摘ありがとうございます。今後注意していきたいと思います。ところで、36A 先生または 38A先生でしたか、その場でスタッフにこのことを伝えて下さったのは。よく聞き取れないまま、講座が終わってから、感想で指摘するようなことではないですからね。一言も聞き逃すまいとするその姿勢、熱意のある先生が参加していらっしゃると思っていました。

37B

○　構音指導オムニバスの話題④「ゲームの負けに弱いわがままな子との関係づくりと構音指導」のＶＴＲを見せていただきたいです。ホームページや YouTube に載せていただけるとありがたいです。

○　吃音の講習会があれば、ぜひ参加させていただきたいです。

●　この講習会では、実際のセラピーのＶＴＲがたくさんでてきて、とても参考になりました。こんなに講師が実際のセラピー場面を見せてくれる勉強会を私は知りません。

38A

・ＭＦＴなどの口腔訓練をしなくても側音化構音が直せる指導法【これは、機能的構音障害に限ってのことです！また、MFT の必要なお子さんもいます。】がある、というのを聞きつけて参加を決めました。

　置換であろうと、側音化であろうと、指導法は変わらない、というのは、考えたことがありませんでした。

・梅村先生が指導をしながら、その子の様子を観察して、微妙な変化を感じ取り、それを指導につなげたりつなげなかったり、という判断を瞬時にされていることは、すごいなと思いました。

・耳をきたえる訓練も、もっとしなくては、と反省させられました。【演習での聞き取りで】 置換か側音化か、まちがえました！

・マガーク効果にも驚きました。目からの情報（＋脳の補正？）って強いんですね。

・たかし君が右頬を引いたり、指を入れて右頬を口の中からかなり強く触っているのが気になりました。単なる癖なのか、右頬マヒ？があって、自己刺激をしているのか…など

※　38A先生は、どう判断されましたか？　このことは指導上かなり重要な視点です。判断によっては、構音指導を中止し、神経の専門医を探し紹介するとともに心リハやＭＦＴの導入を考えなければならなくなります。おそらく、この感想をお書きになっているときに、このことに気がつかれたのだと思いますが、聴講中に気がつかれたのならば、話を遮ってでも質問すべき内容だったと思います。

　もし、たかし君の指導を先生が担当し指導している最中にこのことに気がついたとしたら、次回の指

導を中止し、基本的な指導の見直しを行い、必要な指導力を大至急身に着けてからでない限り、指導の継続はあり得ません。なぜなら、本当に顔面神経や舌下神経等にマヒがあったとしたら、それは、機能的構音障害の範疇ではなくなるからです。そしてその場合、そのことに対する必要且十分な対処を講じてからでない限り、『誤った構音運動』の練習をさせ続けることになりかねないからです。このことについての説明は、もし次回があればその時に。とても長くなります。

・２日目の実習は、緊張感があり、頭や心を使って良かったです。ＤＶＤをみながら、梅村先生が解説されると、声が二重三重に聞こえて、解説がすごく聞こえづらかったです。

一度、ＤＶＤを止めて解説してほしかったです。

最後に吃音の平行同時音読と共調同時音読のＤＶＤを見せて頂いたのは、すごく良かったです！！目からウロコの感じです。実践してみたいです。

※　音読指導、簡単にできそうな雰囲気で紹介してしまったことを反省しております。すぐには実践しないで下さい！　おやりになるのであれば、実技研修を受けてからにして下さい。吃症状を直接扱う指導なので、やりようによってはひどく悪化を招きます。どのような指導でもそうですが、指導技術は、100 冊の専門書を読んでも、100 時間専門家と言われる人の講義を聞いても、決してできるようには、ならないのです。実技研修を受けずして、真似をすることは、絶対に お止め下さい！　【St16・St17】のような実技研修を受けてから実行するようにお願いいたします。】

St16

39C

先生のお話を拝聴するのは、３回目になりますが、以前のセミナーでも出てきた声門破裂音の症例の子の事が思い出せず、もし、こういった子が自分のもとへ来院されたり、ＳＴの先生から「声門破裂音があるので診てほしい」と言われても、スクリーニングとして適切な所へ紹介することも(今は、梅村先生へ紹介していますが)問題がどういう事なのかを理解する事も難しかったと思い、反省しました。これからも、少しずつではありますが、少なくとも、「歯科に通っておきながら、ずっと問題を見過ごされてきた」という事のないように、学び続けていきたいと思います。

普段の仕事の中で、多くの子どもたちに接していますが、子どもにふりまわされているのでは…とか、教育としてこの子への今の対応は、この子のためになっていないのでは…等を自問自答する事があり、今回の講演では耳が痛い部分もありました。「通りゃんせ」や「パーソナルスペース」等の心理学や行動学へのスキルアップも急務だと思いました。親へのサジェスチョンで、“その子”を診ての今の状況と、具体的な見通しを伝える事は明日からでも臨床に反映していきたいと思います。

40A

「人格をかえていく」育てていく、指導はできていません。「なおそう、なおしたい」という思いが強かったです。「楽にまねできる、まねしようと思う」関係をつくるのが、やはり大切な

のだと思いました。指導がうまく進まないのは、その関係づくりがうまくできていない、子どもを理解しようとしていないのだと反省しました。できるところとできないところの境目を、指導できるようにしたいです。

吃音について、もっと学ばなければと思います。共調音読法も学びたいです。

いろいろな事例を実際にみせていただき、ありがたかったです。指導プログラムの「楽しい反復練習＝短文の練習…トランプあわせゲーム」のところは、ＨＰにありますか？

初めてビデオをみせていただきました。平行音読との違いって、変わった様子がわかりました。（楽に声が出る）共調音読法についても、音読から会話につなぐところも学びたいです。

※　「梅村は、**“早く”**治そう、治したい」という思いを強く抱いて日々指導に当たっています。「一時でも早く治してほしい」という親御さんや本人の願いに、忠実に応じようとすれば、それが当然だと思うのです。ただ、そのプロセスで、『育む・育てる』指導をしたいのです。そして、そのことの方が、親御さんや本人の願いに、忠実に応じる**“近道”**になると考えています。10,000 回の反復練習よりも、ずっと早く！

41A

梅村先生の構音指導講座を受講して、まだ言語担当の経験は浅い私ですが、目から鱗が何百枚も落ちたような気がします！

昨年「はじめの一歩」で学んだこととのギャップで、頭が少し混乱していますが…

「構音指導の中で子どもが変わっていく！」「言語指導は人生にかかわる仕事！」「いかに早く、この子どもを自立させるか！」「誤り方で指導方法は変わらない！」「自覚があるなし、意欲があるなし、その子に応じたやり方で！」「鏡は使わずに対面で！」…etc

これからも指導技術を磨いて、頑張っていきたいと思います!！

42A

先生の指導ＶＴＲを拝見させていただきながらの研修は、何よりも貴重で、３回目の参加となりました。毎回毎回、新鮮さがあり、また、根っこにあるものが、以前よりは見えてくるようになったと思います。それと同時に、この仕事の責任の重さ、自分の不勉強、力量不足がより一層強く感じました。（この研修に来なかったら、「これではまずい!!」の自覚なく２学期の指導に入っていただろうと、ゾっとしました。）

最近の私のＶＴＲの見方が、正しい舌の動きか？正しい音か？と構音の方ばかりを気にしていることに気づきました。(もちろん、マガーク効果を意識した上で、客観的に振り返る必要があるのは当然ですが…) しかし、子どもへのかかわり、その日その日の今日のこの子への対応をするための、子どもの見取り【?】ができているのか、見逃していることが多いのではと思いました。１日目の、この子をどう見る？その根拠は？という部分をもっと話せるようになりたいと思いました。ここを鍛えることが、「次の一手」につながるのだと思います。早く次の一手を考え、対応できる実践家になりたいです。

「楽しくなければ」というモットー、私たち研修者のためにも貫かれており、今回もあっという間の時間でした。先生の情熱に負けないよう、２学期、スーパーバイズを受け頑張っていきたいです。

◎　吃音、共調同時音読についての講座、実習を是非希望します。

【 はい了解です。このような声を待っていました。】

43B

長く、小児の言葉や発達の世界から遠ざかっていたので、苦手意識を持っていましたが、今回の研修会に参加させて頂いて、言語教育や発達に関する知識の普遍的な部分と「大人の言語治療との共通点」と、自分が持つ言語聴覚士としての知識と経験が肯定されたような気持になりました。

梅村先生独自の持論と子ども達とご家族に寄り添う姿勢と視点は、以前と全く変わる事がなく、改めて梅村先生のすごさを感じると共に、とても共感できました。

小児でも大人でも対人間としての尊厳や配慮、専門家としての細やかな観察眼と根拠に基づいた診断と対応等、共通して必要な事を感じました。

また、治すのではなく育てるという事、その子の言葉が変わる事で、人格（性格）が変わり、その子の生活（人生）が変わるという言葉に深く共鳴するとともに心に響きました。

とても貴重な機会を頂きまして本当にありがとうございました。参加して本当に良かったです。先生の益々のご活躍とご健康をお祈り致しております。

44A

ことばの教室担当になって４年目ですが、今回の講座で自分の足りない部分に気付かされました。口や舌等、部分にこだわりやすかったのですが、体全体を見なくてはならない（姿勢一つとっても）ことや、子どもとの関係作りを大切にしているつもりでしたが、教室の中だけだったり、子どものペースにのってしまったりと反省すべき点が多々ありました。

構音指導の順序も発達の順を第一に考えていましたが、一人一人によって異なること、そのためには検査が大切であり、様々なケースに対応できるだけの知識と経験をもっと身につけようと思います。

講座の中で多くのビデオを見ることができたのが、一番ありがたかったです。勉強する機会が少なく、特に実際の指導の場面を見ることが少なかったので、本当に参考になりました。できれば、ＤＶＤ化してもらって、繰り返し見たいです。

個人的に、トイレが近いので、休憩が１時間半～２時間毎にあるといいなと思いました。

YouTube やＨＰの文書を事前に見ることができたのもありがたかったです。アンケートも Google フォーム等を使ってもいいのではと思いました。

45A

来年のことは気にせず、思い切り指導してほしい……という意味のことをおっしゃった校長先生、すてきですね。そのような校長先生とめぐり合ったり、そのような方から信頼される通級担当になりたいと思いました。

「体育の先生が向いている」…非常にうれしい言葉です。大学で体育を専門にしておりました。今、大学での勉強が生きていると感じることができました。ありがとうございます。(「生かせなくなった」と思っていました)

※　某大学の中学の体育専攻を出た「ことばの教室」の友達がいます。「構音運動も、実は、直接的に構音運動に関わる筋肉だけではなく、全身の筋肉をバランスよく使っている。また、吃音のブロックの際の、喉に認められる緊張の入り方も、単に、肩や喉が緊張するだけではなく、やはり全身の筋肉を使ってブロックしている。従って、どんな場合も、粗大運動は勿論だが、巧緻動作や随意運動機能等々の把握は、特に大事だね」等々の話も懐かしいです。

≪スランプについて≫

訓練した運動には、必ず？スランプがあります、ね？　運動のスランプについても詳しく知りたいですね。共調発語指導で全く吃症状が認められなくなって、しばらくすると若干名ですが、通室頃の状態よりはずっと軽いのですが症状が出る子もいます。ですから、終了する時には、「3か月後、または、半年後に通室し始めの頃ほどではないけども、声が出難くなることがあるので、様子を観ないですぐに連絡をください。すぐに対処します」と助言しています。その状態を『ぶり返し』との考え方も一部ではありますが、経験上、ぶり返しでは説明のできない現象があります。恐らくですが、運動に観られる“スランプ”と考えると、どこか納得できるのです。ぜひその辺の所見をお聞かせ願えればありがたく思います。

≪側音化構音と運動機能について≫

[R01]は、『構音と随意運動機能の関係について』と題して学会発表させていただいた論文です。

実は、側音化構音のあるお子さんの場合、小学3年でもスキップができないや、5m の直線歩きができない、また、継時運動と同時運動のバランスが病的ではないにしろぎこちなさを感じさせるなどのお子さんが、確かにいます。そのようなお子さんの場合、残念ながら、終了までに指導回数が 50 回を越えることもあります。従って、側音化構音への指導の場合、そのお子さんの指導の予後の判断の為にも、運動機能の把握は、必要条件と考えています。

但、構音(点)指導の順序や方法が異なることは、ありません。念のため。

吃音の音読のさせ方、レパートリーが広がりました。すぐ役立てたいと思います。

※　音読指導、簡単にできそうな雰囲気で紹介してしまったことを反省しております。38A先生同様に、実技研修を受けずして、決して、すぐには役立てないで下さい！　[St16・St17]のような実技研修を受けてから実行してください。

緘黙さんのとのコミュニケーション、楽しく見せていただきました。検査の前が大事なんだと感じました。

＊東北でしか通じないかもしれない言葉を言われたときに、研究会の先生方が介入されるといいのかな？と思いました。（「がおる」「ナンバースクール」…他にもあったかもしれません）

※　全くその通りです。気を付けます。ただ、どの言葉が「東北でしか通じない言葉」なのかの判断がつきません。実は「ナンバースクール」なんで何処でも使用している言葉だと思っていました。ですから、他の先生方も同じ気持ちでいるかもしれません。ぜひ、その時その場で、遠慮なくご指摘ください。

演じる演習、楽しかったです。間違っても、アハ～という雰囲気がとても良かったです。

私も、幼・中学生の指導もしてみたいです。

46A

たくさんの資料、ＶＴＲを準備して教えて頂きありがとうございました。

「どんな子どもだと思う？」の質問にぼんやりとしか答えられないことがよくわかりました。担当している子ども達がどんな子どもであるのか、もう一度、言葉にしてみたいと思いました。

又、どんな子どもにも合わせていけるようになりたいと強く思い、関わっていきたいと思います。子どもの心がよく分かっていらっしゃるから、関わり方のバリエーションがあることがよくわかりました。（プレールームを工事中にしてしまうところの発想はとても驚きました。）

o 子どもの頭の中のイメージを理解する。

o 遊び心、やり取り遊びなどを大事に関わっていきたいと思いました。

o この子どんな子？職場でも広げていきたいと思います。（自分の見方を広げていくためにも）ありがとうございました。

47D；梅村

※　『音の見取り』『子どもの見取り』『観取り』について、心情的にとても気になります。

o Weblio 辞書から

看取りとはもともとは、「病人のそばにいて世話をする」、「死期まで見守る」、「看病する」という、患者を介護する行為そのものを表す言葉でしたが、最近では人生の最期（臨死期）における看取りを持って、単に「看取り」と言い表すことが多くなっています。

o デジタル大辞泉（小学館）

1　見て取る。見てはっきりとさとる。「彼我の実力の差を瞬時にー・る」

2（「看取る」とも書く）病人の世話をする。看病する。また、その人の臨終に付き添う。「重病の父をー・る」「母の最期をー・る」

3　見て写し取る。

o 三省堂　大辞林　大三版

【「見取る」と同源】

病人のそばにいて世話をする。また、死期まで見守る。看病する。「最期をー・る」

「ことば」は生きていますから、辞書に「有るか・無いか」で判断るつもりはありませんが、どうなんでしょう？　気になります。比較的多くの先生方が使用されているので、きっと著名な先生がご使用された“単語（用語？）”なのでしょう。また、「デジタル大辞泉の１」の意味での使用と考えれば、決して誤りではないのでしょう。

でも、平常心ではいられない自分が居ます。恐らく、自分の年齢のせいでしょう。きっと。

※　“機能性”構音障害の名称について

45A先生へのコメント『構音と随意運動機能の関係について』で述べましたように、神経学的に診断がつくほどではないのですが、何か運動全体に、Soft-neurological-sign[R01]が出現する子がいます。『原因が全く無い』と断言できるのであれば、“機能性”でも良いでしょう。ですが、「無の証明は、悪魔の証明」です。将来医学が発展し、もしかしたら、何か、生理学的・病理学的な原因が発見されるかもしれません。断定できない限りは、もしくは、『原因が無いように診える』のであれば、“機能的構音障害”と称するのが妥当なのではないでしょうか。実際に、“機能的構音障害”“器質性構音障害”と分けている文献も見られるようになってきました。

※　37先生の「こんなに講師が実際のセラピー場面を見せてくれる勉強会を私は知りません」について

沢山の先生方の感想の中に『指導動画の視聴』についての感想がありましたので、ここでまとめてその趣旨について述べさせていただきます。

①　先輩の先生に学ぶ

34A先生の感想に対するコメントに、行木富子先生、山岸洋子先生からのご指導についてで述べましたように、お二人とも、『ご自分の行った指導についてはご自分の言葉』で解説して下さいました。そして、梅村にコメントしたことは、ご自分の指導で見せて下さいました。これが“実践”だということを、それこそ“実践”で示して下っていたのです。梅村の実体験です。

医療の現場で、手術の術式や手さばきについて、いかに話術豊かに説明してくれる教官、教授でもいいですが、全く手術そのものを見せてくれない教官や教授を、あなたは信用しますか？　信用できますか？　尤も、そんな場合、教官や教授にはなれないとは思いますが。

また、著名な専門家の有意義と感じられる講義を何度も何度も聞き、その講義に心底感動しても、指導（治療）ができるようにはなりません。

ある領域の手術では“神の手”と言われている医師（某大学の教授）がおっしゃっていました。

★　「我々の仕事は、何人治して、なんぼのもんじゃです」と。

この言葉が、自分にとっても原点です。

実際のセラピー場面をなぜ見せるのか？

本に書いてあることは、その本に学べばいいのです。一見具体的に書いてあったことを目の前の子どもに行ってみようと思っても、指導者のちょっとした動きや表情一つで、上手くいったりいかな

かったりします。なぜ上手くいかなかったかを知ることは、難しいものです。実際指導しているときは、客観的に自分を視ることができないからです。それを指摘し、実際に実行して見せる！　そんな実力を身に着けたいと思ってはきたものの……ですが、やはり、指導の実際を観ていただき解説するのが一番説得力のある講義だと考えたからに他ありません。

「プライバシーの問題があるので……云々」など、理由にならない理由（本人や親御さんの了解を得ればいいのですから）で、演者が行った実際の指導の視聴が無い講義ならば、私なら、途中ででも退席すると思います。

お二人の先生のように、他の人に言うからには、自分のやっていることを見せることができて初めて、その言葉に重みが生まれ、信用されるのではないでしょうか。

② 信じられますか？

「子どもにとっては遊び、指導者にとっては指導」「口腔内の図を用い、舌の動かし方等を指導する必要は、全くない。むしろ害」「今から、チの練習を始めます等の挨拶は、やめる」等々や「側音化構音に対する指導の四つの原則；o 舌の体操や舌を平らにするなどの指導は必要ない　o［i］から指導する必要はない」等々、簡単な理由も書きましたが、その言葉を、にわかに・・・信じられますか？　指導場面を観ずして！　改善している様子を観ずして！

私だったら、その指導を見るまでは信じません。ですから、自分の実践で、自分の言葉で解説し、そして、批判を受けたいのです。

実践の場では、万人受けする綺麗な言葉は、必要ありません。仮にあったとしても、美しい言葉を体現するのが実践です。体現して初めて目の前にいる子どもや本人の利益になるのです。ですから、目の前にいる子どもや本人について、実践の話をする。討議・検討を加える。斬新な新しい知識・技術があったとしても、そこからしか指導力の向上は図られないと、梅村は考えています。

随分長い感想・コメントになってしまいました。
最後までお読みいただきありがとうございます。
先生方のご意見やご希望を2022年構音・吃音指導講座に生かし、計画・実施したいと思います。